

病防第93号
平成26年9月26日

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

タバココナジラミのウリ類退緑黄化ウイルス（CCYV）保毒状況と防除対策（技術情報第13号）について（送付）

ウリ類退緑黄化ウイルス（CCYV）の保毒虫数（誘殺数×保毒虫率）が前年に比べてやや高いので、防除対策を徹底しましょう。

記

1 調査結果

- 1) 8月上～下旬に、ウリ科野菜栽培地域の3地点の屋外に設置した黄色粘着板（10×10cm）に誘殺されたタバココナジラミは、1.7頭/日/枚で前年（3.8頭/日/枚）に比べて少なかった。
なお、トマト栽培地帯では、誘殺数が平年より多い地点も確認されている（注意報第5号参照）。
- 2) 3地点で黄色粘着板に誘殺されたタバココナジラミのCCYVの平均の保毒虫率は8.7%で前年（3.8%）に比べて高かった。
- 3) 退緑黄化病の発生リスクの指標となる保毒虫数は0.22頭/日/枚で前年（0.15頭/日/枚）に比べてやや高く、保毒虫数が高い地点も確認された。

2 防除対策

- 1) これから定植するほ場では、タバココナジラミを栽培ほ場に「入れない」対策を徹底する。施設のサイド開口部に目合い0.4mm防虫ネット、谷換気部に目合い1mm以下の防虫ネットを被覆する。
- 2) 定植2～3日前に、苗の株元へ粒剤を処理し、定植直後のウイルス感染を防ぐ。また、粒剤の効果が低下する定植20～30日後に成虫に効果の高い薬剤を散布する。
- 3) 育苗ハウスから苗を運ぶ際には、移動中にタバココナジラミが寄生しないよう、運搬車等の荷台を防虫ネットや幌等で覆う。
- 4) タバココナジラミを施設外に「出さない」対策を徹底する。現在栽培中のほ場では、栽培終了まで、タバココナジラミの防除を徹底する。
- 5) 栽培終了後は直ちに密閉処理を行い、ほ場内のタバココナジラミを死滅させる。露地栽培などの密閉できないほ場では、成虫に効果の高い薬剤で防除したうえで植物残さを早急に片付ける。
- 6) 施設内の発病株や周辺の野良生えは、重要な伝染源となるので除去する。
- 7) ウリ類周年栽培地帯におけるメロン退緑黄化病発生リスクは、5月から12月まで高い水準で推移する（農業研究成果情報No.597(平成25年5月)ウリ類周年栽培地帯でのメロン退緑黄化病発生リスクの季節変動参照)。

熊本県農業研究センター 生産環境研究所
病虫害研究室 予察指導係（病虫害防除所）
担当：荒木、児玉 TEL：096-248-6490

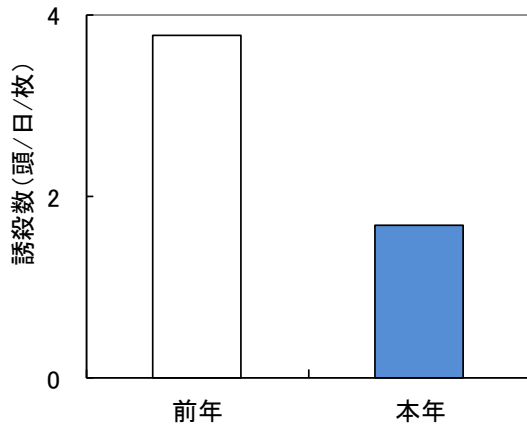


図1 ウリ科栽培地帯に設置した黄色粘着板によるタバコナジラミ成虫誘殺数

黄色粘着板 (10×10cm) をウリ科栽培地域 3 地点に約 7 日間、1 地点当たり 4 枚設置。誘殺数は、1 枚当たりの 1 日の誘殺数 (頭/日/枚)。

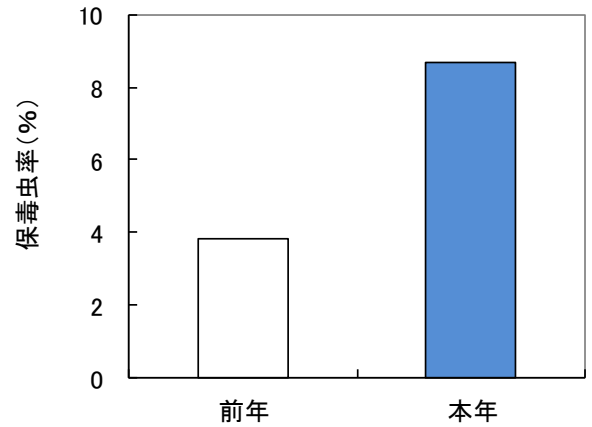


図2 粘着板に誘殺されたタバコナジラミ成虫のウリ類退緑黄化ウイルス保毒虫率

黄色粘着板誘殺されたコナジラミを RT-PCR により検査し、保毒虫率 (保毒虫/検定数) を算出。本年は 240 頭、前年は 137 頭を検定。

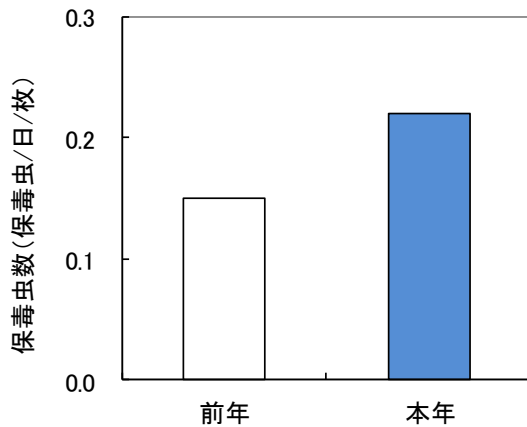


図3 ウリ科栽培地帯のタバコナジラミ成虫の保毒虫数

保毒虫数 (保毒虫/日/枚) は、誘殺数 (頭/日/枚) × 保毒虫率 (保毒虫/検定数)。